

「えのくま日記」五十五号

平成二十八年三月 ～ 平成二十九年四月

「新学期スタート」

高橋 かおる (年中わかば組担任) 日記

始業式の朝。「わかば組になりました。わかば組の先生は、かおる先生です。」と、発表してから一週間が経ちました。「初めて見る先生が担任の先生になった・・・」
子どもたちの気持ちは、「どんな先生かな」とドキドキしたり、不安になったりしたのではないかと思います。それでも、翌日には私の顔も名前もすっかり覚えてくれて「かおる先生、遊ぼう!」と元気に声を掛けてくれました。「わかば組の先生」として受け入れようとしているのだなあと嬉しくなると同時に、子どもたちが「クラスの先生」を頼りにしてくれていることを改めて感じました。担任をさせていただけることに感謝しながら、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしたいと思います。一年間よろしくお願いします。
(四月十四日)



三十一名、揃って巣立っていった。心も体も大きく成長した子どもたち、また昨年度からの成長をひしひしと感じ、涙が止まらなかつた。

お別れ会では、一人ひとりと向き合うと、より成長を感じた。今まで色々な事があつたが、楽しい事の方が断然多く、そんな日々「ありがとう」と言つて下さる保護者の皆様には、こちらこそ感謝の思いでいっぱいだ。毎日、笑つたり泣いたり忙しいが、子どもたちと色々なことに挑戦して、本当に充実した一年だつたし、改めてこの仕事は素敵だなと思つた。

（三月十八日）

「じゅげむの卒園式」

園長日記

年長さんの卒園式は、今年も雨でした。式には百五十五名の保護者の方々がお見えになり、卒園証書を渡す際には、卒園児一人ひとりに、とても温かい拍手をいただきました。

年長さんは、少し緊張しながらも、とても堂々と落ち着いていました。私は、名前を読み上げ、子どもの目を見ながら証書を渡しましたが、どの子の目にも力がありました。年少さんや年中さんの時の姿や思い出が重なり、感慨深いものがありました。

そんな卒園する年長さんに「園長先生の最後のお願いだけど、発表会で聞く事の出来なかつたお父さんやお母さん、そしてお嫁さんになって長崎に戻る恵先生のために、じゅげむをもう一度やってくれないかい」と伝えると、恵先生のつき組は勿論、他のクラスの多くの子どもたちが一斉に立ち上がり大声で「じゅげむ」をやってくれました。子どもたちや保護者そして恵先生を含む多くの先生達にとつても、思い出に残る感動的な「じゅげむの卒園式」になりました。

（三月十八日）

「最後の一日 三学期終業式」（三月二十一日）

週案日誌より



☆年少少ひかり組

担任 塩月 香菜子

朝の会を始めた時、とても落ち着いていたが、持ち帰るために用意していた粘土が気になるように「持って帰るよ」と話すと、「家でも遊べるね」と、とても嬉しそうであつた。一年間お世話になつたお部屋に「ありがとう」の気持ちを込めて大掃除をしようねと話すと、嫌がる子どもはおらず、「次、どこ拭けば・・・」と積極的に聞いてくる子どもがほとんどであつた。終業式では、座り方がくずれる子が多かつたので声を掛けた。精勤賞をもらつて嬉しそうにしていたり、逆にもらえずに、ほしかつたと泣く子どもいた。来年は頑張るぞという意気込みが感じられた。最後の日を、とても楽しく過ごせた。

☆年少はな組

担任 武生 香里

今日は、今年度最後の日であつた。朝の会の中で、今日がはな組で過ごす最後の日であるということ伝えると、Aちゃんは涙を流す姿があつた。その後は、大掃除をした。お道具箱の整理をし、雑巾を持って部屋中を拭いていった。きれいになつた部屋を見て、子どもたちはとても満足そうにしていた。その後の終業式も、一人ひとり落ち着いて参加できていた。帰りの会で、一人ひとりの顔を見て、寂しい気持ちにもなつたが、この一年での子どもたちの成長をしみじみと感じた。どんな年中さんになるのか楽しみである。

☆年少ゆき組

担任 梶間 菜摘

久しぶりに全員が揃つての登園となり、少し落ち着きのない姿が見られ、終業式でも、そわそわとした姿があり、気になつた。大掃除では丁寧に取り組むことが出来、年間の感謝の気持ちも込めながら取り組めたと思う。修了児との別れを悲しんだり、クラスの別れを感じながらも、来年度の進級へも期待を持ち、友だちとの会話にも笑顔が見られた。

☆年少みどり組

担任 岩武 まどか

年少として最後の一日だった。大掃除では、今まで過ごしてきた教室に「ありがとう」と感謝の気持ちを持って綺麗にすることができた。身の周りの整理、整頓も進んでする姿が見られて成長を感じ嬉しかった。終業式には静かに参加することができた。部屋に戻り賞状を渡すと、とても嬉しそうだった。あまり最後ということにピンときていないようだった。「春休みが終わったら年中」ということを、とても楽しみにしていた。年中になっても、それぞれが自分なりに頑張っているように見守っていきたい。初めての担任がみどり組で良かった。

☆年中 にじ組

担任 庄 恵理奈

終業式は、欠席者もおらず、全員で参加できた。式の最中は比較的、顔も引き締まっている子が多く、後ろから子どもたちの姿を見て、四月を思い出すと心も体も成長したなと感じた。代表の子も、しっかりと表彰をステージ上でできていた。大掃除は、雑巾絞りも自分たちで上手にできていて、全員で教室を綺麗にすることができた。帰りは一人ひとりに、しっかりと言葉を掛け、お別れができて良かった。

☆年中ことり組

担任 波多野 幸子

雑巾の絞り方や床のふき方をしっかりと教えた。雑巾は、男女交替にしてよく見て覚えられるようにした。進級できる期待は大きいですが、まだまだ静かになるための声掛けがなければ、ざわざわが続く。終業式は、しっかりと参加できた。修了するMちゃん、Sちゃんとお別れの時間を降園前に持った。淋しさもあるが、子どもたちは明るく前向きだった。色んな事があり、担任もかわったが、子どもたちが明るく本当に成長してくれたことが嬉しかった。

☆年中 そら組

担任 末田 祥子

今日でそら組の子どもたちと過ごすのも最後なんだと思うと、朝の会や給食など、どれをとっても一つずつ終わっていくことに寂しさを感じた。大掃除は、みんなが意欲的におもちゃや椅子を運び出し、雑巾がけをする姿があった。修了証書はY君が代表で前に出た。恥ずかしがって園長先生の目を見ることができていなかったが、嬉しそうなお表情が印象的であった。

「チューリップと終業式」

園長日記



快晴の終業式の朝、子どもたちに香里先生がマイクで呼びかけました。「今日は、一年の最後の日、終業式ですよ。園庭にみんなが植えたチューリップのお花が咲きましたよ。」

春の陽光を受けて、赤と黄色のチューリップが一斉に咲き始めました。終業式は、卒園した年長さんがいない分、2Fホールは少し寂しく感じましたが、今まで年長さんが座っていた所に年中さんが、年中さんの所には年少さんがそれぞれ座っていました。そんな子どもたちに綺麗に咲いた数鉢のチューリップを見せ「寒い冬に頑張ったチューリップさんたちが、綺麗なお花を咲かせたよ。良い子のみんなは、もうすぐ年中さんや、年長さんだよ。頑張った立派な年中さんや年長さんになろうね。いいかい・まさかママがいいよ」と泣く年長さんや年中さんはいないだろうね」と伝えると、笑顔の返事が返ってきました。

(三月二十二日)

「一人だけの卒園式」

園長日記

年長さんの卒園式の当日にインフルエンザでお休みした、ほし組のR君の「一人だけの卒園式」が十一日遅れで行われました。

式服に着替え、2Fホールに上がってみると、先生達がお花を飾り、フロアーには誘導用の紙花が並べられていました。そして、本日の主役のR君と、お母さん、おばあちゃん、R

君のお兄ちゃん達が少し緊張気味に待ってくれていました。
卒園証書を渡した後には、担任の美香先生の涙ながらのお祝いスピーチがあり、ミニ卒園式は、厳粛な雰囲気ながら楽しく感動的な式となりました。本日で、年長さん九十二名全員に卒園証書を渡すことができました。
(三月二十九日)

「預かり最後の一日」

工藤 真紀 (延長保育担当) 延長保育日誌より

今日は卒園児が登園してくる最後の日。年少、年中と一緒に遊ぶ年長さんの姿を見ると、嬉しいような、寂しいような、なんとも言えない気持ちになった。
お弁当の後、雨が降り始めたので室内で遊んだ。ホールでハンカチ落としやフルーツバスケットをして、年長さんみんなで沢山笑って、沢山話をした。お手紙や絵をプレゼントしてくれて、とても嬉しかった。明日から新年度が始まるので、楽しい時間が過ごせるよう頑張りたい。
(三月三十一日)

「預かりさんのお花見弁当」

園長日記



桜が満開となった園庭に、ブルーシートが敷かれ、預かりさんの子どもたちが先生達と一緒に美味しくお弁当を食べていた。

この時期ならではのランチタイムに少しだけお邪魔し、子どもたちと楽しい触れ合いができました。「年少さん、手をあげて」「らん」と言うと、多くの子の手があがった。「ほんとはね、みんなは、もう年少さんではないんだよ、年中さんなんだよ」と伝えると、嬉しそうな笑顔が返ってきた。「それでは、年長さん手をあげて」と続けると、「はーい」の大きな返事とともに新年長さんたちが目を輝かせ、元氣よく手をあげた。咲き誇る桜の樹の下で、可愛らしい子どもたちとの楽しい交流のひと時であった。
(四月六日)

「新年度のスタート」

波多野 幸子 (副園長・教頭) 園日誌より

本日より平成二十八年度がスタートし、園に賑やかな園児の姿が戻り、一気に活気づく。旧クラスに入りながらもロッカーの名前が違ったり、壁面が新しいものに変わっていたりすることに少々、戸惑いながらも、すでに自分たちが進級する期待でわくわくしている気持ちが伝わってきた。

年少児も自分の教室や旧担任に見送られ、新しいクラスに道具箱を胸にかかえながらお引越し。新しい担任や教室に目を輝かせていた。昨年は落ち着きのなかった始業式の反省をもとに、時間を下げての実施が生かされ、先生方も園児も落ち着き、園長先生の話もしっかり聞くことができた。職員紹介では、さらに子どもたちの目が輝き、わくわくドキドキ、キラキラの始まりとなった。
(四月八日)

「ドキドキの年度初日」

末田 祥子 (年長ほし組担任) 日記

四月八日(金)、平成二十八年度1学期の始業式の日でした。1学期の始業式は誰にとっても特別な日です。新しいクラスを知り、新しい担任を知り、同じクラスの友だちを知る。この日、送迎バスでお迎えに行くと、普段とは違った緊張している表情の子どもたちがおおり、目が合うとひきつった笑顔を見せ、フーツと静かに深呼吸をしていたAくん。「ドキドキするの?」と聞くと、大きく頷いていました。園に直接子どもを連れて来られた保護者の方も、スマホを片手に靴箱の名前をチェックされていました。教師も、担任を発表した時の子どもたちの反応が気になり緊張します。みんながこのような想いを抱きながら幼稚園に来る日はきつと一年に1度…。いつもとは違う光景が印象的でした。
(四月八日)

「今年度スタート」

武生 香里（年少はな組担任） 日記

四月八日（金）、今年度がスタートしました。久しぶりに登園してくる子どもたちの表情からは、「今日から年中さんになる！」という意気込みが伝わってきました。クラスを発表し、各教室に移動する際も、これから始まる生活への期待でいっぱいの子でした。そんな、子どもたちの頼もしい背中を見送りながら、一緒に過ごしてきた一年間が思い出され、子どもたちの成長を嬉しく思うと共に、ちよっぴり、寂しい気持ちになりました。しかしながら、あわせて、これから入園してくる子どもたちとの生活に対しても、ワクワクする気持ちが膨らみました。年長さん、年中さん、年少さんの子どもたちが、この一年、どのような姿を見せてくれるか、今からとても楽しみです。私も、子どもたちに負けないように、日々成長していきたいよう頑張っていきたいです。

（四月八日）

「別れと出会いの日」

園長日記

始業式の朝、子どもたちが旧クラスに集まった。担任さんとお友だちとの別れの朝であった。結婚で退職した塩月香菜子先生も、年少ひかり組に来てくれて、子どもたちとの最後の別れを惜しんでくれた。

つかの間のお別れのセレモニーを終えると、旧担任さんが新クラスの名前を告げ、進級するクラスに案内した。新クラスでは、それぞれ新任が出迎え、新しいお友だちと合流した。始業式に臨む子どもたちは、先生達の事前指導もあったのかも知れないが、態度が実に良かった。憧れていた年長や年中のお兄ちゃんやお姉ちゃんになれた喜びを多くの子が実感しているようだった。式の最後に十人の担任の先生が前に並び、自己紹介の後、クラスの帽子を被ると、子どもたちから「にあってるよ」の声援もあり、新たな出会いの日がスタートした。

（四月八日）

「綺麗な目と感性を大切に」



小野 智美（年中にじ組担任） 日記

朝、園庭で遊ぶ時「ともみせんせい。」と元氣よく呼んでくれるにじ組のお友達。「ダンゴムシみつけたよかわいいよね、桜の花びらきれいだから先生に持ってきたよ」と言われるたび、すごいな素敵などと毎日感動しています。こんな綺麗な目と感性を大切にしていきたいな、そう思うと同時に一人ひとりの個性を大事にたくさん褒めていきたいと思えました。大分川の土手散歩「春みつけ」では、沢山の春を見つけたり、道行く人に元氣よく挨拶する姿も見ることができました。季節に親しみを持ち一緒に過ごしていきたいと思えます。一年間どうぞよろしく願います。

（四月十二日）

「春見つけ」

園長日記

少し肌寒かった朝、年長さんと年中さんになったばかりの子どもたちと「春見つけ」の散歩に出かけました。

子どもたちは新クラスのお友だちと手をつなぎ、担任の先生の誘導で、のんびり楽しく大分川の土手の上を歩きました。大分川のせせらぎの音や、鶯などの小鳥のさえずりを聞きながらの約一時間のお散歩でした。春霞の先に、紫にけむる雄大な久住の山々や由布岳・鶴見岳を見ることができました。ママへのお土産に、菜の花をたくさん摘んで、手に持っている子どもいました。慌ただしい新学期ですが、少し心がほっこりした「春見つけ」の散歩でした。

（四月十二日）

今春卒園した子どもたちの入学式に立ち会うために、荏隈小学校に出かけました。園長七人目になって、小学校の一年生から六年生の全ての学年に大きくなった卒園児がいます。小学校で彼らに会えるのも大きな楽しみになっています。

入学式では、五年生と六年生が新入生の前後に座って歓迎の言葉や、校歌を紹介しました。来賓席から、新入生や五年生、六年生の顔を見ていると、多くの懐かしい子がいました。「泣き虫王子」や「ハンカチ王子」もいました。目が合うと、笑顔で応えてくれました。式が終わり、六年生の席の後ろを歩いていると、席に座っている何人もの子が手を伸ばしてきました。懐かしい卒園児と六年目のハイタッチができました。
(四月十三日)

「素晴らしい入園式」

塚本 美紀(年中にし組 年少ゆき組保護者) 日記

素晴らしい楽しい入園式がありました。毎朝、お兄ちゃんが準備を始めると、園帽子をかぶり、シオルダーバッグをかけて玄関で待っていた娘。ついに、この日を迎えることができました。

初めての集団生活で、不安なことだらけですが色々な事を学び、楽しい思い出をたくさん作って欲しいです。早生まれで、最近色々なことが一人でできるようになったばかりで御迷惑をたくさんかけると思いますが、先生方、職員の皆様、保護者様どうかよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。
(四月十四日)

「これからよろしくね」



梶間 菜摘(年長なきさ組担任) 日記

始業式の日、「なきさ組の先生になりました」と発表するといまいちの反応の子どもたち。大丈夫かなあと不安に思いつつも始業式を終え、教室でご飯を食べていると、一緒に食べていた女の子から、「先生、ゆき組の水色も似合ってるけど、新しい緑(黄緑ですが)も似合ってるよ」と言われました。

担任になるまでは一緒に遊んだり話をする機会もあまりなく、挨拶をしてもあまり顔を合わせてくれなかったことも多かったこともあり、とても嬉しく思いました。他にも「先生あんな!」と自分のことをたくさん教えてくれる子どもを見ていると、今まで知らなかった一面があり、毎日たくさんさんの発見があります。まだまだ知らないことがたくさんあると思いますがこれから少しずつみんなのことを知りたいと思います。なきさ組さん、一年間よろしくね!
(四月十四日)

「黄色帽子は〇〇先生」



庄 恵理奈(年長つき組担任) 日記

新しい年度が始まり、ある朝まだ被り慣れない黄色の帽子を被って園庭に出ていると、Hくんが「けい先生く!けい先生く!お水出して!」と私の方を見て顔を真っ赤にさせながら大きな声で叫んでいました。まだ子どもたちも帽子の色が変わった先生に慣れないのか、可愛らしい間違えをしてみました。まだ子どもたちも帽子の色が変わった先生に慣れないのか、可愛らしい間違えをしてみました。子どもたちが『つき組の先生は恵理奈先生』と覚えてくれるように、私も早く子どもたちの新しいクラスや名前を覚えたいと思います。

(四月十四日)

「入園式の日あれこれ（寸評）」

園長日記

☆大賑わいの入園式

好天に恵まれ、学園創立七十周年の記念となる入園式が盛大に行われました。今年も百名を超す新入園児で会場は父母、祖父母総計二百名以上の方々のご参加をいただきました。

☆形から心を養う幼稚園の入園式

保護者の皆様へのご挨拶のなかで「形から心を養う幼稚園教育」について、お話ししました。えのくま幼稚園は、色んな取り組み（形）を介して子どもも、保護者も教職員も共に成長することを願っています。入園式も、心を養う大事な教育的活動と考えています。

☆お迎えの言葉

新入園の子どもたちに向けて、年長の在園児のお兄ちゃんやお姉ちゃん達八名が、ステージからお迎えの言葉を伝えました。「幼稚園はたのしいよ、うさぎのなっちゃんや亀吉、ひぶなもいるよ。わからないことがあったらきいてね。」大きな声で伝えた後、先生達と一緒に「えのくま幼稚園の歌」も紹介しました。とても堂々と立派にできて、拍手もたくさんいただきました。

☆テレビ取材のあった入園式

入園式の様子をTOSさんが取材してくれました。とても丁寧な取材で、夕刻、ニュース画面で流れる「えのくま幼稚園の入園式」を楽しく観ました。一番の驚きは、年少さんが二人、インタビュアーを受け、それなりに答えていたことです。二人にとっては、幼稚園デビューとテレビデビューが重なりました。

☆入園式夜の大地震

夕刻七時、TVの「えのくま幼稚園の入園式」を観終えて、「お芋のジュース」を飲みました。入園式後に飲むジュースは、格別の味でした。食事を済ませ寝ようかなと立ち上がったら、大きな揺れを感じました。最初は、かなり酔っぱらったぞ思いましたが、照明器具が揺れているのを見て地震だと分かりました。TV報道では震度七の大地震で、熊本県では、多数の死傷者が出たとのことでした。可愛い園児のことを考えると、防災対策を真剣に考えねばならないと思いました。（四月十四日）



「ドキドキ入園式」

佐々木まゆみ（年少ひかり組保護者）日記

我が家は、今年でえのくま幼稚園五年目、三番目の子が入園しました。親の不安をよそに朝、お姉ちゃんと二人、楽しそうに着替えをし、「早く幼稚園に行きたい」という息子を嬉しく感じました。

入園式では、式の途中、一番前の席で眠ってしまったのには驚きましたが、教室に戻ってからは先生の話を聞いて、おとなしく座っていることが出来たので安心しました。これから初めての集団生活の中で、たくさん経験しながら成長する息子の姿をドキドキしながらも見守っていききたいと思います。三年間、よろしく願います。（四月十四日）

「園バス 2016」

波多野 幸子（副園長・教頭）日記

今年も朝の園バスに乗りました。入園式後のしばらくは、慣れない子どもたちが安全に乗車できるように職員は二人態勢で対応します。初日は、「よっしゃ」と気合を入れて、まだか先生と添乗。園バスが近づくと楽しみに待っていた新入園児さんも、いざお母さんと離れる時には全身の力をふりしぼって抵抗します。抱きかかえて乗せたバスは一気に大音量の泣き声が溢れます。「うん、うん、おうちに帰りたいね。帰ろうね」と、まだか先生と交互に声をかけながら、まわりの進級児たちには「ようちえんに着いたら、すぐにかえるんだよね」

と、助け舟を求めます。すると、「そうで。ようちえんでちよつとだけあそんだら、すぐにおうちにかえられるんでな」と、自分の言葉を添えてはげましてくれる年中さん。先輩らしく頼もしい姿が嬉しい瞬間でした。

季節が桜から若葉へと移りかわろうとしている今、それぞれの子どもたちが一日も早く新しい環境に慣れ親しみ園生活を樂しめるように、見守り援助したいと思っています。

(四月一五日)

「一年が始まりました！」

岩武 まどか(年中そら組担任) 日記

入園式が終わり、そら組二十六名がそろいました。自己紹介では、自分の名前と好きな食べ物全員が元気良く発表することができ、さっそく「○○ちゃん」「○○くん」と呼び合う姿が見られました。まだ、不安に思っている子がいますが、遊びや活動を通して、「幼稚園に行きたい!」「幼稚園が楽しい!」と思ってもらえるように頑張りたいと思います。この一年で子どもたちがどのような姿や成長を見せてくれるか、とても楽しみです。

(四月十五日)

「大泣きの子と地震」

園長日記

新入園児の泣き叫びは、今年も例年に負けない激しさでした。それでも未就園児教室「どーなつクラブ」を体験している子が多く、ほぼ想定内でした。クラスを脱走する子は少なく、昨年よりは、かなり楽な思いがしました。

ただ、地震の継続は全く予想外でした。ニュース画面で地震の被害の大きさを見るたびに今回の大地震の凄まじさに驚いています。

(四月十五日)

「金太郎朝バスに園児三名」

園長日記



新学期の子どもたちの出迎えに、新任の小川真里奈先生と金太郎朝バスで出かけました。年度当初は、新入園児さんが大泣きし、ママから離れられない子がいるので教師二人が添乗しています。

子どもたちとのバスでの出会いを楽しみに乗り込みましたが、朝バスに乗ったのは僅かに三名でした。園長になって初めて経験する数の少なさでした。大地震の余震が続き、安全を考慮されての欠席が多くなりました。自由登園日の土曜日の本日は、最終的に登園した子どもは五十名程でした。時折、余震がありました。園庭を存分に使って子どもたちは先生達やお友だちと楽しく触れ合いました。

(四月十六日)

「小さな発見」

松本 美香(年中ことり組担任) 日記

先日、入園式前に進級児さんだけで大分川の土手へお散歩に出掛けました。のんびりと歩きながら、色んな春見つけをしました。テントウムシだけを見つけた子どもや、色んな草花の名前を知っている子ども、白い鳥をずっと「かもめさくん!」と呼んでいる子ども等、一人ひとり違う様子が見られました。まだまだ子どもたちも私自身も慣れない環境ではありますが、ゆつくりと子どもたちとかかわり、一人ひとりの色んな姿を見つけていきたいと思っています。

(四月十八日)

「幼稚園での生活スタート」



小川 真里奈(年少ゆき組担任) 日記

今年度、新規採用で年少組さんの担任をさせていただくことになりました。先日の入園式では、新しい出会いにドキドキわくわくした気持ちで臨みました。幼稚園での生活が始まり、

お母さんに会いたくなくなって涙してしまふ姿もありましたが、泣いているお友達を慰めてくれる優しいところや、外で泥だらけになりながら異年齢のお友達とも楽しそうに遊んでいる様子が見られ、これからのような成長を見せてくれるのかとても楽しみです。これから子どもたちが楽しく安心して生活できるように気持ちに寄り添いながら関わっていきたく思っています。一年間、宜しくお願い致します。

(四月十八日)

「笑顔あふれる園生活を願って」

上村 理恵子(年少はな組保護者) 日記

今年の四月に大分へ引越しをし、息子にとって初めての土地での園生活がスタートしました。今まで、どこに行くにも一緒だったので、幼稚園へ行く時も「ママも一緒に」と、何度も何度も言っています。お迎えの時間まで「泣いていないかな」「どんな風に過ごしているのかな」と心配ばかりしています。

今はまだ、表情も固く、園生活に戸惑っている息子ですが、先生やお友達との出会い、集団生活の中でこそ経験できる事がたくさんあると思います。半年先、一年先には入園式の年長さんのように、たくましく、そして息子らしい姿が見れることを楽しみに、笑顔あふれる園生活を過ごしてほしいと願っています。

(四月十九日)



「こいのぼり」

内藤 紀央(年少ひかり組担任) 日記

先日、幼稚園の園庭にもこいのぼりが出ました。園でしか見れない大きなこいのぼりに子どもたちは大興奮でした。風が吹く度にゆらゆらと風に乗って空を泳ぐこいのぼりを追いかける子どもたちがたくさんいる中、年少さんも次々に登園してきました。お母さんと離れたくないと泣いていたお友だちに「あ！みて！」と、こいのぼりを指差すと、「行ってもいい？」と、とても興味津々な表情に変わりました。帽子をかぶり外に出ると、ゆらゆらと泳いでいるこいのぼりを笑顔で楽しそうに追いかける姿に可愛らしさと、子どもの楽しむ素直な気持ちを感ずることができました。些細なことではありますが、これからも少しずつ、楽しみを一緒に見つけていききたいと思えます。

(四月二十日)